令和6年2月7日 公開プレゼン質疑応答 午後の部

UP-6 暮らし応援協力隊

(山口委員)

去年が初めての活動だったと思うんですが、去年の実績や何世帯ぐらいの方のお手伝いをされたのかっていうのと、今年度の目標といいますか、何世帯ぐらいに行き渡るといいなどお考えでしょうか、教えてください。

(団体)

一応昨年ですね、立ち上げたときは、1か月一件でもあればいいかなと。何件くるかも全くわかりません、自分たちの体力も関係するものですから。単純に12件から15件内ですね。ちょっとしたものを含めれば、その位になると思います。あと、今後については、今、屋外がほとんどですので、屋内、大きいタンスの移動等、屋内作業についても入ってくればな、多少そういったのも、お助けができればなというふうに考えております。

(山口委員)

ということは去年が12件ぐらいで、今年度は20件とか…、(はい、そうですね。)

(団体)

大体今のところ、1か月1件のところでしてますけど、ちょこちょこ入れれば20件近くはなってると思います。

(山口委員)

分かりました、ありがとうございます。

(牧野委員)

ボランティアの方とスタッフさんの違いですね、構成人員が5名と書いてありまして、その5名の他に、地域のボランティアさんも参加されるのでしょうか。

(団体)

いや、いろんなこういうことをやってますよと言うと、「わあ、いいことだ。」と言われ、賛同されます。でも、実際お願い出来ますかというのと、やっぱり、「いやあ、ちょっと」と、なかなかお手伝いの実行に結びつかない、できればそういったのがほかの区にも広がり元気な方がお困りの方をお手伝いするということが少しずつ浸透していけばなというふうに思います。一遍にはちょっとなかなかですね、やっぱり体力も関係するものですから、なかなか

か思うようには出来ない部分もあります。

(牧野委員)

それから、費用は、ご依頼された方からの負担は一切ないということでしょうか？

(団体)

中には、飯を食べていきなっせとか、言われるお客様もいらっしゃいます。そこはですね、素直に受けてですね、その中で会話をすれば、あの方も困ってるよとか、いろんなことも、情報ももらえるかなということで、実施しております。

(石坂委員)

今、ちょっと質問ありましたように、利用者の方からはお金を頂いてないということですが、今年度と来年度ですかね、この助成の利用でお考えという事ですが、単純に、活動すればするほど人件費がかかるという中で、今この助成がありますけれど、将来的なその展望といいますか、助成が受けられなくなった時、活動というのはどういうふうなイメージでいらっしゃるのでしょうか？

(団体)

活動について、広く知ってもらい、手伝ってくれる方できれば継続的に活動してくれる若い方にも入っていただきたい、その部分が今後の検討課題であり、校区の方にご相談していきたいと思っています。

(越地委員長)

対象は校区内の方だけ、高齢者だけ、どこで年齢とか線引きするんですか？

(団体)

線引きはしてませんが、要望を伺ったときに連絡をして必ず現場に行きます。自分たちではちょっと無理だなという場合はお断りします。中には剪定とか希望される場合もあるものですから、その時はもうお断りしています。ちょっと、ただ、長いのを切るだけだったらいいけども、剪定になると、そこまではできませんということで。

(越地委員長)

じゃ、若い人でも対象になりうるわけですね。

(団体)

相手の方のご要望の中でお困りであれば、できる範囲内でやります。

(越地委員長)

はい、ありがとうございました。

UP-7 NPO法人傾聴ネットキーステーション

(上村委員)

この事業1と事業2、それぞれの受講者数、どれぐらいを想定していらっしゃるか教えてください。

(団体)

一応ですね、それぞれの受講者数としては、大体15名から20名ぐらいの方をご案内しております。余り多いと、どうしても内容的には難しくなりますので、ワークをしたり、ロールプレイをしたりする作業のときに、それぐらいの人数が最適かと思っております。

(上村委員)

ありがとうございます。この収入計画の中に受講料5000円×20人で10万円というふうにありましたが、この受講料を取る講座というのは、どちらの講座でしょうか？

(団体)

これは最初の養成講座のほうです。

(上村委員)

養成講座の20人という事ですね、わかりました、ありがとうございます。

(団体)

公開講座は無料で行っています。

(松本副委員長)

先ほどの質問に関連しまして、受講料5000円を20人ということなんですけど、この事業1のほうってというのは、1回ずつで終わる活動ではないんですか。それを何回かされるということであれば、20×回数分の収益があるのではないかと理解するんですけども。

(団体)

8講座ですので、8回講座で5000円。

(松本副委員長)

8回講座を2回するっていうことは掛ける2じゃないですかね。

(団体)

そうです。

(松本副委員長)

5000円×20人×2回。

(団体)

講座を1回は8日間、8回講座をいたします。

講座1回が一応5000円ということになっております。はい。よろしいでしょうか。

(松本副委員長)

8回シリーズね。だから、お1人の方が…、1講座ですね、それを2回実施と書いてあるので、シリーズの1回に関して、20人参加されるってことは、5000円×20名×2回ではないですか？ トータルで40人参加されるっていう計算にならないかなと思うんですけど。

そこがちょっと整合性が分からないというところが一つ、あると思います。時間がないので。あとすいません、それに関連して、冊子をですね、200冊つくられるんですけど、ここも受講生の数、受講者数から考えると、冊数が多いなという、ちょっとそこも気になるとこなんですけど、これはいかがですか？

(団体)

最初のほうのは、傾聴ノートと言いまして、応募した皆さんには全部差し上げることになっております。人数が正直なところ不明ということもありまして、少し多めにはしております。

UP- 8 一般社団法人 Art&Sports for Everyne

(牧野委員)

すごい回数の体験会をなさっていらっしゃるんですけど、皆さん体験会に参加される方たちは1回に、何回ずつ、何人ぐらいで参加なさっていらっしゃるんですか？ その体験会には、そこには必ずしも障がい者の人がいなくても体験会をなさっていらっしゃるってことですか。

(団体)

はい、小学校だとクラス単位なので1回につき30人とか、一般の商店街とかでやると、

多いときは300とか400とか、の方々が体験されます。土日だと、障害のある人たちも一緒に参加をしてもらうことが可能なので、一緒にやったりしますが、基本は障害のあるなしに関係なく、我々が行って一緒にやっています。小学校だと特別支援学級の生徒さんが来られたりするので、そこで、子どもたちに、そういう子どもたちと一緒に活動する意味のことをお話しさせていただいたりする事もあります。

(石坂委員)

今の関連になりますけど、実際、体験会される時に障害をお持ちの方がいらっしゃらないときもあるということですけど、そうした場合にこのポッチャを通して、こういった形で、参加される方々に、意義を伝えておられるのか。

(団体)

私たちが考えてるのは、ポッチャって障がい者スポーツなんだよっていうことを前面に出すのではなく、スポーツとしての楽しさを前面に打ち出し、実はそれが障がい者スポーツだったんだと、だから、このスポーツを通して、もしかしたら、将来的に障害のある人と一緒にプレーする機会があるかもしれない。我々がこの世界をつくるには障害のない人がパラスポーツをご存じないとなかなか実現が難しいので、そういう意味合いでも、この体験会を実施しております。

小学校に行くときには、ポッチャって、障害の程度に応じて、投げられない人はランプという滑り台のようなもの使ったりとか、投げられないけど蹴れる人は蹴ってもいいとか、道具のようなものやルールを工夫することで一緒に楽しめる。これってというのは、普通の生活の中でも同じことだよ、みたいなお話をいつもさせていただいています。

(松本副委員長)

これ1回に、何人ぐらい参加できるんですか？

(団体)

同時にやるのは最大12人。

(松本副委員長)

12人ですね、小学校とか考えると1コートでは足りないのかなぁと思って。

(団体)

実は、大抵2コート3コートつくるんですけども、今回はまず1コートを購入したいという話です。

(松本副委員長)

分かりました。謙虚な方だなと思いました。2枚とか申請されてもよかったのかなあと。

(団体)

要は3分の1を自己負担になるので、その経済的な財政的な余力が我々にはないということです。

(松本副委員長)

で、今回は1枚を申請されたということですね、わかりました、ありがとうございます。

UP-9 生きづらさカフェ～ただの居場所～

(石坂委員)

収入計画のところに計上されてます会費なんですけど、これは、大人食堂の分？

(団体)

大人食堂の分です。会費はもらわずに、何とかやってたんですけど、ちょっと食材費は助成金で賄い切れないということで、皆さんから毎回500円をいただいて、それを次の食材費に充てて回していくという形でやってます。

(松本副委員長)

事業1の「生きづらさカフェ」と事業2の「ただの場所」は、どちらがオープンで、どちらがクローズとか考えていらっしゃいますか？

(団体)

事業1がいままでオープンでやってたんですけども、オープンな場所にするとちょっと、話してない人もいらっしゃったので、事業2ただの居場所をオープンにして、事業1をクローズにしようかなと思っています。

(松本副委員長)

はい、わかりました。支出のところで会場の使用料とか賃借料とかは無料で大丈夫なんですか？

(団体)

事業1と事業3だけ会場使用料は予算に入れてないんですけども、それはですね、事業1が協力してくださっている「でんでん虫の会」さんが会場費を肩代わりしてくれるということ

と、事業3の大人食堂も、大江校区社協会長の鳥崎さんのご厚意で、会場費を免除してくれるということで、今回事業2だけ会場費を予算計上しました。

(松本副委員長)

わかりました、事業2は回数は6回だったと思うんですけど、ここが内訳のところは12回分と書いてあるのは、記入間違いでいいですか？

(団体)

すいません、記入ミスです。

(松本副委員長)

6回ですね。

(団体)

そうですね、2000×6回分ですね。

(松本副委員長)

先ほどの事業1と事業2の、お菓子代が、事業1が500円ばかり安いんですけど、よかったですかね。同じ2000円、2000円じゃなくてよかったですか。

(団体)

これはちょっと助成金のちょっと帳尻合わせみたいところがあって、こんな金額になってしまいました。

(松本副委員長)

こちらを安くしてしまっていると。わかりました、以上です。

(山口委員)

先ほどスライドの中で、大人食堂のお料理とかも出てきたんですけど、先ほど会費で集めたお金を食材費に充てられてるとお聞きしたんですが、多分6万円では足りないんじゃないかなあと思うんですが、足りない部分とかは、何か他の手だてがありますか？

(団体)

大人食堂のことですか？

(山口委員)

参加費の会費で500円×10人×12回分、それを食材費等に充ててるっていうお話だったんですが、足りませんか？

(団体)

大体、500円×10人分で、5000円で毎回予算内で何とかしてるんですけども、皆さんそれぞれ食材を持ち寄ってくださったり、食材も鍋とか材料費がかからないような感じで、料理というよりは、つながりメインみたいなのところがありまして、たまには少しひもじい料理になってしまうこともあるんですけども、それで何とかやらせてもらってます。はい。

(山口委員)

分かりました、ありがとうございます。

UP-10 特定非営利活動法人 くまもとライフポート

(牧野委員)

施設の活動の中で、毎年3回程度、江津湖地域の生態系の保護の活動をなさっていると書いてありますが、これは、施設の利用者の方たちと職員さんでなさっているということですか。

(団体)

去年したときは一般参加も募集をしまして、熊本市の市政だよりに参加募集を載せていただきましたので、非常に多くの方に参加をしていただきました。うちの職員と利用者、障がい者も一緒にやっております。

(牧野委員)

今回の助成対象となる活動は、1回ということですかね。

(団体)

ここ何年か、コロナ感染状況でなかなか活動がしにくかったということもありまして、蜜を避けるために釣り大会をやってきたんですけども、もうそろそろいいかなということもありまして、今年度は直接河川に入って、捕獲する活動をしたいなと思っています。何年か実施してなかったので、とりあえず今年は1回という形で計画しています。

(石坂委員)

これまでも外来魚の捕獲活動をされてきたかとは思いますが、今回の助成の申請をなさっている中で、網を3種類、それも1つずつでなくて、複数の、ということで、これまで使われてきた道具の買い替えが必要になったということですか。

(団体)

実は、最初にこの活動を始めたときに、私の仲間の知り合いだったりとかそういった方々にお願いして、寄附をいただきまして、その中から、胴長、刺し網、たま網等を購入して活動をしてきた訳なんですけど、10年近く経ちまして、やっぱり劣化してるんですよ。もう胴長なんか、破れたりして、その補修が大変で、水漏れして危険な状況にもなってるものですから、そういったものも補充しなければならないということで、いわゆる買い換えにはなるんですけど、ぜひご協力いただければなあと思ってこの度申請をしたということです。

(山口委員)

講師の方をお呼びされるということで、講師の方っていうのはその外来種とかの専門の方とか、詳しい方なんでしょうか。

(団体)

今までずっとやってきた中で、捕獲にしても、釣りにしても、やっぱりどうしても、私たちじゃ分からない魚の種類があります。それを調べる必要がありますので、今までは、熊本市の博物館の学芸員さんの清水さんという方に来ていただいたり、あるいは、同じ仲間で、非常に魚に詳しい方に来てもらい説明していただいています。

(石坂委員)

たしか網以外にはゴムボートも計上されてますけども、ゴムボートはどういった形で使われるのでしょうか？

(団体)

捕獲作戦でやるときに川の中に入って作業するものですから、今まで事故が起きたことはありませんが、例えば胴長を履いてそのまま川の中に倒れたり、あるいは、川の周辺で協力してる子たちが、落ちたりしたときに、やっぱり一つぐらいゴムボートを持っておいて、いざという時にはそういうので救助した方がいいんじゃないかなということもありましたので、計上しました。

越地委員長総評

はい、講評とまではいきませんが、少しだけ感想などを述べさせていただきます。

今日は午前中が5団体あったんですね、午後は皆さんの5団体、あわせて10です。

この10の団体の取組を、大ざっぱに、分野で分けてみますと、これも強引な分け方ですが、福祉関係が5つあったかなあと。

高齢者の方とか、社会的に弱者とされる方を対象とするもの、福祉が5、それから次世代を意識した、例えば音楽とかで次世代を育てていこうという、こういうのが3つあったかと。そして、環境関連、これが2つ、10団体を5・3・2という具合に分けてみました。

実に多彩ですよ。今日の団体の中で傾聴ボランティアでしたか、あの文章の中にですね、こういうくだりがありました。一行ですけども、熊本市70万人を超える大都市になって、行政だけでは、カバー出来ない部分がたくさんあるんだと。行政では、出来ない多種多様な課題を熊本市が抱えていると書いてあって、そこで私たちの出番だというような意味合いかと受け止めます。実際そのとおりだと思います。

行政はやっぱり普遍性といいますか、全体につながることでないとやりづらい。それか公平な視点とか。そういうのはもう絶対必要なですね。

その点、各種団体におかれましては、対象や目的を絞ってやられる、これはもう皆さんならではの役割なんですよ。

行政があって、民間企業があって、皆さんのようなNPOボランティア団体が、これらがリンクして今の社会は成り立ってるんだと思います。

で、皆さんのやっておられることに対する期待、役割は減ることはないですね、増えることはあっても。そういう中でですね、今日の審査項目というのは5つあるんですね、そのうちの1つに、発展性という項目があります。これ中身は何と書いてあるかといえば、事業の持続性や事業効果が広く波及する見込みがある。事業の拡大や改善などを行いながら発展していく可能性がいわゆるSDGs的なものにもつながりますが、事業がこのまま継続できるか、広く、波及していく見込みがあるかという項目が、あるんですね。

これはいろんな意味を含むと思いますが、1つは今日の委員からの質疑でも幾つか出ておりましたが、やっぱり、経費的な問題、というのはここに当てはまるかだと思います。せっかく皆さんが熱意を持ってやっておられることが、経費で行き詰まって、出来なくなったら、これもったいないですよ。残念です。

よってこういう補助制度、助成制度というのがあるんですけども、これまた、いつまでもというわけにいかないのが現実です。いつかはひとり立ちといいたいでしょうか。そういうのがこの発展性には求められています。そこで、皆さんの申請の中でですね、資金面でどういう現状かなあというのをいただいた資料から今見てみましたら、会費をもらってるところ、あるいはその他の収益。これを得ておられるところが10団体のうち4つ記入してありました。6つはそういうのはゼロ、自己資金であったり助成金でまかなっていくという事ですね。収益、あるいは会費をもらう、言わば入場料をもらうとか、いろんな形があるんでしょう。

もともとNPOあるいはボランティア団体において、資金収入というのは何か、水と油みたいなニュアンスがありまして、もともとなじまない世界ではある。しかし、先ほど言った持続性とかいうのを考えていくと、やっぱりそれも無理のない範囲で意識せざるを得ないと思うんですね、助成はいつまでもありませんから。その辺もこれからは、ぜひ、強く意識していただいて、どう続けていくか、どうやって収入を得るか。これからよりまたそこに目

を向けていただく。具体的には、今の入場料、会費をもらう、あるいは地域の、団体、あるいは、地域の事業所等からの、志をいただく「寄附」、そういうやり方もあるでしょう、これはいろいろでしょうね。

資金が多くなればそれでいいと、楽をできるかなという視点とはまた違うんですね、この資金問題は。資金を得るには、入場料とか会費をもらうためには、それに見合った内容がないと、払ってくれません。変な例えですけど、例えば無料の展示会、無料の博物館もあります。無料の講演会もあります、これ助かります、無料ですから。でも、ある博物館ではですね、小さな博物館ですけど、無料だったのを有料にしようと。ただ、レベルアップしないと有料に出来ない。

ですが、有料にしたおかげで逆に関心も高まって、その分をまた、収蔵品の充実にも充てられるという相乗効果が起こって、決して無料だけが能じゃないんだなあというようなケースも、今、少し思い出しました。だから、皆さんにぜひ稼いでくださいという意味でもないんです。でも、今やってることが、お金を払って、あるいは会員を募ったときに「俺も」となるようなプログラムとかになってるかという自問自答をするには、この収益というのを考えるのは、決して無駄ではないと思います。そうすることで、サイクルがいい方に転がっていく。応援者がいっぱい出てくる。金銭的な応援も含めて出てくる。

そうすることで、内容がより充実していく。また充実しないとさっき言いましたように、応援もありませんからね。そうすると、皆さんが1番悩みである資金の問題、そして人手の問題、人手というのがやっぱり資金とどっかで絡んできますので、こういう2つが加われば、もともと持っておられる、高い志、熱意、そういうのとリンクして、より良いNPO活動、あるいは、ボランティア活動になるのかなあと。という印象を、聞かせていただいて持ちました。どうぞこれからのご健闘も祈ります。今日はありがとうございました。